

1

この文章は、彼女がやっとなをかなえたということ表しています。「ついに」は「かなえた」に近づける方が、文章の意味がよく伝わりますね。
このように強調したい言葉の近くに修飾語を置くのがよいですよ。

2

①主語を考えることがポイントです。
次郎がどこにいるのかははっきりさせましょう。



A「訪ねた」のは太郎と次郎であるとき



B「訪ねた」のは太郎だけであるとき



②読点(、)を入れる場所を変えるだけで、文章の意味も変わります。
読み手に誤解なく伝わる文章を書くよう心がけましょう。

キソドリル⑥ 係り受けを整えよう

6 係り受けを整えよう

1 次の文は係り受けが正しくない。意味がよく伝わるように、言葉を変えずに、順番を入れかえて文を書き直そう。

彼女はついに努力を重ね、ミュージカル女優になるという小さいころからの夢をかなえた。
彼女が努力を重ね、ミュージカル女優になるという小さいころからの夢をついにかなえた。

ポイント
わかりにくさを避けるためには、必ず主語(主部)と述語(述部)と修飾語(修飾部)をはっきり分けよう。言葉の「かたまり」が見えるとうりやすい。
コソの修飾語(修飾する部)と補修飾語(修飾される部)の位置を近づけよう。
読点(、)など記号をつけて、文を区切ろう。

2 次の文は二通りの意味でとれる。この文について、あとの問いに答えなさい。

太郎は次郎と三郎を訪ねた。
次郎は、太郎と訪ねたのか？
太郎に訪ねられたのか？
①あとの④・⑤それぞれの意味になるように、言葉を変えずに、順番を入れかえて文を書き直そう。
④「訪ねた」のは太郎と次郎であるとき
次郎と三郎を太郎は訪ねた。
⑤「訪ねた」のは太郎だけであるとき
太郎は次郎と、三郎を訪ねた。

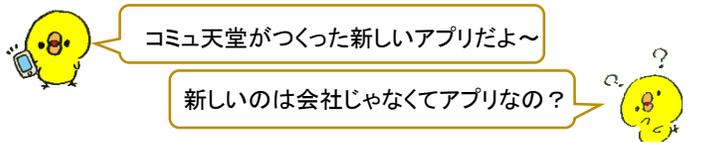
ここで覚えていてほしいこと

～係り受けの正しい文章にするためには～

・主語と述語を正しい組み合わせにしよう！
惜しい例「私の趣味は、一人で思い切り歌います。」



・修飾語と被修飾語は離さないようにしよう！
惜しい例「新しいゲーム会社が開発したアプリだ。」



・読点(、)など記号をつけよう！
惜しい例「彼女は妹と先生に手紙を書いた。」

